様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：１２６１２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｈ００６４１

研究課題名（和文）近世日本数理科学史の領野横断的研究の実践

研究課題名（英文）Cross-Disciplinary Research on the History of Mathematical Sciences in Pre-Modern Japan

研究代表者
佐藤　賢一（Sato, Kenichi）

電気通信大学・大学院情報理工学研究科・教授

研究者番号：９０３２３８７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　9,500,000円

研究成果の概要（和文）：近世日本の数理科学史に関する調査研究を実施し、以下の成果を得られた。和算史においては、日本最古の和算書である『基盤上』を発見し、その内容解釈を行った。開陽丸遺跡から引き揚げられた古文書が『大成算経』他の和算書、天文暦学書であることを確認した。測量術史においては、ヨーロッパから伝来した測量道具クロス・スタッフの定着過程の一端を明らかにし、元禄日本総図の歪みの原因を解明した。天文暦学史においては、彦根市立図書館所蔵の平石家文書を調査し、平石家と幸徳井家との関係を明らかにした。各分野において、未知の史料情報を新たに評価解釈することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義・社会的意義は以下のとおりである。21世紀を迎えて飛躍的に進展したデジタル人文学方面の成果に拠りつつ、近世日本数理科学史に関する未知の史料情報を迅速に探索し、その内容を成果として公開することに努めてきた。本研究期間中、新たに発見された関係史料は数十点に及び、いずれも各分野の通説に修正を迫るものである。これらの情報を継続的に発信することで、今後の近世日本数理科学史の知見を刷新することに大きく寄与することが期待される。

研究成果の概要（英文）：We have conducted research on the history of mathematical sciences in pre-modern Japan and obtained the following results. In the history of Japanese mathematics, we discovered and interpreted "Gobanjo," the oldest book on Japanese mathematics. We confirmed that the old documents recovered from the Kaiyomaru site were "Taisei Sankyo" and other books on Japanese mathematics and astronomical calendar studies. In the history of surveying, we clarified a part of the process of adopting the cross staff, a surveying tool introduced from Europe, and elucidated the cause of the distortion of the Genroku Nihon Zu. In the history of astronomical calendars, we investigated the Hiraishi family documents in the collection of the Hikone City Library and clarified the relationship between the Hiraishi family and the Koutokui family. In each field, we were able to newly evaluate and interpret unknown historical information.

研究分野：近世日本科学史

キーワード：和算史　天文暦学史　測量術史　デジタル人文学　陰陽道史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究の背景と意義を分かりやすい事例を用いて説明すると次のようになる。
近世日本科学史における伊能忠敬は著名であるが、彼一人の手によって全国測量が達成されたわけではない。全国各地にいた測量・算術・天文学を知る協力者の存在と彼らのネットワークを伊能が利用できたからこそ、その事業は成就した。伊能本人の科学史的研究は重要であるが、その協力者たちの実態・背景を全国的な調査に基づく総合的、社会史的な数理科学(和算・天文学・測量術)の科学史という観点から分析検討することも同様に重要である。伊能の登場に至るまで、近世はほぼ 200 年を経過している。その間の数理科学的知識の蓄積と普及はどのような状況となっていたのか。これが本研究課題の核心をなす学術的な「問い」である。伊能忠敬とその協力者を事例に挙げたが、本研究は近世日本の数理科学の全般を対象とする。その問題意識は、近世日本の数理科学史を分野と地域を横断して総合的に分析することに向けられる。研究方針としては、個別分野史料の理解を前提として、当時の数理的知識の文化史上の位置付け、受容の実態分析、社会史的背景の分析をも包含する。従来の数理科学史の研究において、各分野それぞれが連携を取らずにいた点は是正すべきである。和算史では和算家の解いた問題、測量術史では地図、天文暦学史では暦や星図というように、各分野固有の対象に関心を集中する傾向があった。しかし近世において、和算・測量術・天文暦学は決して別分野に細分化されていたわけではなく、当事者の多くは領域を跨ぐ知的活動をしていた。その点からも、現代の研究者が現代的な学問区分に依拠してこれらを分析することには限界がある。本研究の第二の主題は、数理科学諸分野の科学史研究者が連携をし、その実相に迫るための効率的な支援ツールを開発しつつ、共同研究を実現することである。

２．研究の目的

近世日本数理科学(和算・測量術・天文暦学)の歴史研究では、従来、各分野の個別研究が主体で、複数分野を横断的かつ総合的に研究する態勢が手薄であった。この状況を改善すべく、先行研究の無い未紹介の史料群の領野横断的共同研究を実践しつつ、文献史料の校合支援システムを開発する。この支援システムによって研究者の史料論的・書誌学的作業に要する負担を軽減し、複数分野にまたがる研究への障壁を低くする。本研究ではこの支援システムを文献史料だけではなく図像史料(地図、星図)にも拡張し、一層の応用をはかる。さらに、校合した諸史料の作成者や地理的分布情報を利用することで、当時の数理科学関係者の人脈や数理科学的知識の普及の分析も行う。最終的には、文献校合という学説史的研究を社会史的研究と融合する研究モデルを提示する。

３．研究の方法

(1)：全国各地に近世数理科学史料は数万件単位で散在しているが、目録に登録されたのみで科学史的な研究の未着手史料は数多い。それらのうち重要度の高い史料を集中的に調査する。
・伊能忠敬「測地原図」全 93 枚(東京大学：測量術、和算) 伊能測量班による地図下書き
・戸板保佑編『天文四伝書』全 415 冊(天理図書館：和算、天文学) 18 世紀天文学の集成
・有造館文庫、井田文庫、稲垣文庫(津市立図書館：蘭学、測量術) 伊勢地域史料の集成
・甲斐国検地帳群(山梨県立博物館：和算、測量術) 関孝和作成の帳簿を含む検地帳
史料群の共通の特色は、近世数理科学の複数分野にまたがることである。調査は従来の科学史研究の手法を踏襲するが、未調査史料群についての新知見を与える点で独創性が期待される。
(2)：近世日本数理科学史の場合、恒常的に研究者数が史料の残存数に比して不足しており、その整理や集約に相当の時間を掛けねばならない状況が続いている。写本史料の内容確定には、一字一句を比較参照しながら写本の異同を検討する校合作業が必須であるが、多大な労力と時間が求められた。一方、学術の普及・伝播を調べるには、文献史料の地域的分布や関係者の人脈を探る社会史的研究が必要となるが、必ずしも書簡や日誌が残っていない人物の研究には多くの制約が伴う。そのような事情もあり、文献史学研究と社会史的研究の間に交流の余裕がなくなる状況が生じている。目録情報を整備した後に、史料そのものを迅速に読解・解釈する技法が切実に求められている。本研究では、このような研究上の限界を打破すべく、写本史料の校合作業支援システムを研究分担者(橋本)と共に開発する。写本の校合箇所(字句の異同のある部分)をパソコンに入力し、そのデータから注釈を抽出し、写本の系統推測までの作業を自動化することで、研究者の負担を軽減すると共に、結果として得られた写本の系統から、それら写本の伝播状況、関係者の人脈を推定する方法論も提供する。この支援システム開発によって、学説史的研究と社会史的研究を統合的に行う道筋が開ける。
(3)：(2)で述べた内容は、代表者が既に和算史料の校合に関して手作業で行っていた経験に基づいて到達した技法である。これを文字史料のみならず図像史料にも応用できるよう拡張する。具

体的には、測量術の地図史料、天文暦学の星図史料の校合にも応用する。これによって、本研究が対象とする近世日本の数理科学史料の全体(文字史料と図像史料)を統合的なシステムで総覧研究できるようになる。

４．研究成果

(1)2018 年度

2018 年度の実績としては、代表者・佐藤が日本数学会で口頭発表をした内容により和算家・関孝和(? - 1708)周辺の未知の人脈を新たな史料解釈によって発見したこと、論文(『電気通信大学紀要』)により、東京大学総合図書館所蔵の和算史料の構成分析を明示したことが挙げられる。研究分担者の梅田、平岡によりそれぞれ暦学、天文学史関係史料の紹介、報告がなされた。システム開発を担当する分担者の橋本は、上記 3 名の研究内容をベースとしたシステム開発に着手し、2019 年度以降の研究に向けた基盤構築に取り組んでいる。

(2)2019 年度

2019 年度の研究実績は以下の通りである。

①2019 年 8 月､中華人民共和国内モンゴル自治区､内蒙古師範大学において開催された ISHIK(国際在来知研究会シンポジウム)において代表者・佐藤が"A Study of Japanese Mathematical Puzzle Book, Gobanjo, in 16th-17th Century"のタイトルで口頭発表した。この成果は、2020 年 2 月に刊行された『電気通信大学紀要』32 巻 1 号に｢日本最古の数学遊戯書としての『碁盤上』について」のタイトルで公開した。碁石を用いた盤上遊戯を記した『碁盤上』が、日本古来の算術遊戯を記していることを示し、料紙の C14 放射性同位体年代分析を行った結果、15 世紀中葉に成立した可能性の高いことが明らかになった。これによって、『碁盤上』は現存する資料としては最古の算術に関する記述であることが判明した。和算の成立を考察する上で、貴重な情報を提示することとなった。

②2019 年 12 月刊行、町線寿郎・牧角悦子編『漢学という視座』(戎光祥出版)に｢蘭学の導入｣の一文を代表者・佐藤が寄稿した。ここでは 17 世紀の技術移転という視野から、ヨーロッパの測量術の技法がどのような形で江戸時代の測量術に導入されたのかを、図像資料の対比から明らかにした。

③2020 年 2 月刊行、町泉寿郎『漢学と医学』(戎光祥出版)に｢江戸時代の和算塾の様相｣の一文を代表者・佐藤が寄稿した。ここでは、18 世紀から 19 世紀にかけて和算家たちが運営した和算塾の実態を幾つかの事例を検討し、当時のメディアを用いた成果公開の虚実や地域をまたぐ人脈、ネットワークの存在を明らかにした。

④研究分担者・梅田は「宝暦改暦前後の土御門家」を朝幕研究会編『論集近世の天皇と朝廷 』(岩田書院、2019 年 5 月刊)に発表した。

(3)2020 年度

2020 年度は世界的な新型コロナの流行によって、史料所蔵機関での現地調査がほとんどできなかった。しかしながら、これまで収集をしてきた史料情報の整理分析を深めることによって、下記のような成果を得て実績の公開を行うことができた。

①研究代表者の佐藤賢一は、和算と測量術の両分野にまたがる史料を分析し、ヨーロッパ伝来の測量道具の１つであるクロス・スタッフが和算書に紹介されていることを明らかにした。これについては、論文「和算書『枕砕十七綱』に現れる測量術の技法について」を『電気通信大学紀要』第 33 巻 1 号において公開した。また、日本総図の作成技法に関する新しい知見を得て、元禄日本総図の歪みの原因を特定することに成功した。これについては、小野寺淳・平井松午編『国絵図読解事典』(創文社)に「阿蘭陀流町見術と元禄日本図の描法」の項目で明らかにした。2019 年以来調査を進めてきた開陽丸の引き揚げ文書について、その分析の中間報告を杉本史子主宰「海洋知の再編と日本社会の新展開」研究会において口頭発表を行った。

②研究分担者の梅田千尋は、2019 年度以来本研究チームで調査を進めてきた彦根市立図書館所蔵の平石家文書について、「史料紹介：彦根藩平石家文書の幸徳井家関係書簡」を『史窗』78 号に発表した。口頭発表として、AAS(The Association for Asian Studies) Annual conference 2021(オンライン開催)において、"Religious Groups Without “Scriptures”: What Held an Onmyodo Organization Together?"を報告した。

③研究分担者の平岡隆二は、天文暦学史方面で先駆的な業績を残した今井氏についての紹介、「今井■[いたる]さんと『天官書』」を『人文』第 67 号に発表した。

(4)2021 年度

①研究代表者の佐藤賢一は、『洋学史研究事典』を編集刊行した。特に「宗門改役」の項目において､北条氏長『攻城　阿蘭陀由里安牟相伝』の原本が Adam Freitag, L'architecture militaire ou La fortification nouuelle(1635)であることを明らかにした。他に､｢建部賢弘『研幾算法』による弓形の弧長の導出式の復元について（続）」において、建部による弓形の弧長を求める公式が、最良近似多項式に類似していることを明らかにした。「伊能忠敬と会田安明」では、会田安明が残した記録に伊能忠敬の実測記録を補う山岳の標高データが記載されていることを確認

した。
②研究分担者の梅田は、論考「近世宗教史における陰陽道」「近世陰陽道研究の成果と課題」「近世社会における「暦」」を発表し、近年の陰陽道史の研究動向を総括し、さらに展望を提示した。
③研究分担者の平岡は、前述した『洋学史研究事典』に「沢野忠庵」他を執筆した。論考、”Deciphering Aristotle with Chinese Medical Cosmology: Nanban Unkiron and the Reception of Jesuit Cosmology in Early Modern Japan”と「長崎歴史文化博物館収蔵「伊能図」」を発表し、南蛮天文学(南蛮運気論)と長崎歴史文化博物館所蔵伊能忠敬地図に関する書誌学的成果を報告した。
④代表者・佐藤、分担者・梅田、平岡、橋本雄太の4名でシンポジウム「開陽丸引き揚げ文書について　幕府天文方と開陽丸」(洋学史学会)を開催した。開陽丸遺跡から引き揚げられた古文書が、幕府天文方に由来することを明らかにし、各文書の内容分析とその分析手法の紹介を行った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計19件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 佐藤賢一	４．巻 34
２．論文標題 建部賢弘『研幾算法』による弓形の弧長の導出式の復元について（続）	５．発行年 2022年
３．雑誌名 電気通信大学紀要	６．最初と最後の頁 7-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18952/00010049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 梅田千尋	４．巻 49-5
２．論文標題 近世宗教史における陰陽道	５．発行年 2021年
３．雑誌名 現代思想	６．最初と最後の頁 62-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 平岡隆二	４．巻 －
２．論文標題 Deciphering Aristotle with Chinese Medical Cosmology: Nanban Unkiron and the Reception of Jesuit Cosmology in Early Modern Japan	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Overlapping Cosmologies in Asia: Transcultural and Interdisciplinary Approaches	６．最初と最後の頁 98-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 平岡隆二	４．巻 －
２．論文標題 長崎歴史文化博物館収蔵「伊能図」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 〈稿本・大名家本〉伊能図研究図録	６．最初と最後の頁 267-273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤賢一	4．巻 —
2．論文標題 伊能忠敬と会田安明	5．発行年 2022年
3．雑誌名 伊能忠敬の地図作成	6．最初と最後の頁 21-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1．著者名 梅田千尋	4．巻 3
2．論文標題 近世陰陽道研究の成果と課題	5．発行年 2021年
3．雑誌名 新陰陽道叢書　第三巻　近世	6．最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1．著者名 梅田千尋	4．巻 3
2．論文標題 近世社会における「暦」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 新陰陽道叢書　第三巻　近世	6．最初と最後の頁 91-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1．著者名 佐藤賢一	4．巻 33
2．論文標題 和算書『枕砕十七綱』に現れる測量術の技法について	5．発行年 2021年
3．雑誌名 電気通信大学紀要	6．最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18952/00009820	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 梅田千尋	4．巻 78
2．論文標題 史料紹介：彦根藩平石家文書の幸徳井家関係書簡	5．発行年 2021年
3．雑誌名 史窗	6．最初と最後の頁 127-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 平岡隆二	4．巻 67
2．論文標題 今井■[いたる]さんと『天官書』	5．発行年 2020年
3．雑誌名 人文	6．最初と最後の頁 55-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 梅田千尋	4．巻 130-3
2．論文標題 書評：木場貴俊著『怪異をつくる―日本近世怪異文化史』	5．発行年 2021年
3．雑誌名 史学雑誌	6．最初と最後の頁 86-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤賢一	4．巻 32
2．論文標題 日本最古の数学遊戯書としての『碁盤上』について	5．発行年 2020年
3．雑誌名 電気通信大学紀要	6．最初と最後の頁 23-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18952/00009423	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 佐藤賢一	４．巻 31
２．論文標題 東京大学総合図書館所蔵和算関係図書の蔵書構造について	５．発行年 2019年
３．雑誌名 電気通信大学紀要	６．最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 梅田千尋	４．巻 210
２．論文標題 近世南都の暦と陰陽道	５．発行年 2018年
３．雑誌名 歴博	６．最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 平岡隆二	４．巻 60
２．論文標題 The Geneva Sphere: An Astronomical Model from 17th Century Japan	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Technology and Culture	６．最初と最後の頁 219-251
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1353/tech.2019.0007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 平岡隆二	４．巻 1
２．論文標題 アリストテレスを運気論で読み解く－『南蛮運気論』と17 世紀長崎における西学理解－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 天と地の科学　東と西の出会い	６．最初と最後の頁 396-407
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平岡隆二	4．巻 1
2．論文標題 クアトロ・ラガッツィ外伝：出会いと発見の騒動記	5．発行年 2018年
3．雑誌名 クアトロ・ラガッツィ 桃山の夢とまぼろし	6．最初と最後の頁 174-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平岡隆二	4．巻 1
2．論文標題 Hendrik Duurkoop's Gravestone	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Buried at the Other Side of the Bay: Remains of Dutch Funerary Heritage in Japan from the Era 1609-1870,	6．最初と最後の頁 67-81, 104-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 平岡隆二	4．巻 1
2．論文標題 Jesuits, Cosmology and Creation in Japan’s “Christian Century” (1549-1650)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Visual and Textual Representations in Exchanges between Europe and East Asia	6．最初と最後の頁 223-243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計13件（うち招待講演　3件／うち国際学会　5件）

1．発表者名 佐藤賢一　梅田千尋　平岡隆二　橋本雄太
2．発表標題 開陽丸引き揚げ文書について　幕府天文方と開陽丸(シンポジウム)
3．学会等名 洋学史学会
4．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤賢一
２．発表標題 開陽丸引揚文書の中の和算史料について
３．学会等名 洋学史学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 梅田千尋
２．発表標題 開陽丸引揚文書と幕府天文方
３．学会等名 洋学史学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 平岡隆二
２．発表標題 開陽丸引揚文書と梅文鼎『暦算全書』
３．学会等名 洋学史学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 橋本雄太
２．発表標題 歴史資料の画像解析とデジタルアーカイブの現在
３．学会等名 洋学史学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤賢一
２．発表標題 開陽丸の引揚古文書について
３．学会等名 海洋知の再編と日本社会の新展開
４．発表年 2020年

１．発表者名 梅田千尋
２．発表標題 Religious Groups Without “Scriptures”: What Held an Onmyodo Organization Together?
３．学会等名 AAS(The Association for Asian Studies) Annual conference 2021（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤賢一
２．発表標題 関孝和と同時代の和算家たち
３．学会等名 日本数学会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤賢一
２．発表標題 17世紀日本の石高制確立期における和算家の活動について
３．学会等名 International Symposium on History of Indigenous Knowledge（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 梅田千尋
２．発表標題 Buddhist-based National Unification and the Transformation of the Relationship Between Shinto and Buddhism
３．学会等名 Association for Asian Studies　2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 平岡隆二
２．発表標題 Jesuits and Western Clock in Japan’s ‘Christian Century (1549-c.1650)’
３．学会等名 The Second International Conference on History of Mathematics and Astronomy ‘Science and Civilization in Ancient World’（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 平岡隆二
２．発表標題 Jesuit Cosmology in 'Christian Century (1549-c.1650)' Japan
３．学会等名 中国科学院自然科学史研究所学術報告（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 平岡隆二
２．発表標題 『天経或問』の写本流布と和刻本の出版
３．学会等名 日本科学史学会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計1件

１．著者名 青木歳幸、海原亮、沓澤宣賢、佐藤賢一、イサベル・田中・ファンダーレン、 松方冬子	４．発行年 2021年
２．出版社 思文閣出版	５．総ページ数 516
３．書名 洋学史研究事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	平岡　隆二 (Hiraoka Ryuji) (10637622)	京都大学・人文科学研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	橋本　雄太 (Hashimoto Yuta) (10802712)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・助教 (62501)	
研究分担者	梅田　千尋 (Umeda Chihiro) (90596199)	京都女子大学・文学部・教授 (34305)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関